



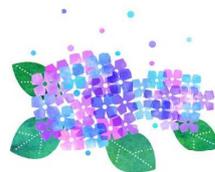
ポプラ中

小原小中学校（小原学園）
学校だより
令和2年7月10日
【第8号】
文責：教頭

<小原学園・スクールソングを作ります>

雨に悩まされジメジメとした湿気の多い梅雨。校舎内も時折廊下が湿気で濡れてしまうことがあります。この時期は季節の変わり目でもあります。体調の管理にはくれぐれもお気を付けください。

さて7月に入り10日間が過ぎました。本校は4月より「白石市立小原小中学校（小原学園）」としてスタートしております。小中の児童生徒や小原地区の皆さんと一緒に歌える曲である「小原学園スクールソング」を作ることになりました。小原小中の児童生徒、卒業生、保護者、地域のみなさま…小原に関係する人々の思いが込められた曲にしたいと考えています。そして、先日の全校朝会では、そのような思いや願いを校長が児童生徒に話しました。（抜粋）



今年から小原小学校と小原中学校は白石市立小原小中学校という名前になり、「小原学園」という愛称で呼ばれることになりました。これからは小学生と中学生と一緒に活動する場面が増えていきます。

この「小原学園」という名前がお家の方や地域の方、小原中学校を卒業して今、別のところに住んでいる方など、小原に関わる全ての人が親しみを持ってくれることを願っています。

そこで今日はみなさんに重大な発表をします。

それは、小原学園の歌・スクールソングを作ります。小原学園に通うみなさんが一緒に歌える歌です。みなさんだけではなく、みなさんの家族や地域の人、小原中学校の卒業生のみなさんも一緒に歌える歌、それを「愛唱歌」というのですが、それを作ります。「小原っていいなあ。」と思ってもらえる歌を作ります。

では、小原学園の歌を誰が作るのでしょうか。作詞（歌のことば）を考えるのは小原学園に通うみなさん、そしてみなさんの家族、地域の人たち、先生たち、そして小原に関わるすべての人たちみんなです。そこでみんなに考えてほしいことがあります。それはみんなの好きな小原の自然、歴史、小原の風景、そしてみんなの好きな言葉です。そうしたものをたくさん集めたいです。みんなの思いがたくさん詰まった歌にしたいと思います。

そして、みんなの思いが詰まったことばを小原学園のスクールソングにしてくれる方がいます。それは小原小中学校を卒業して、今も小原に住んでいらっしゃる「佐藤美佐子さん」です。現在白石郵便局にお勤めになっていて、音楽家でもあり歌手でもあります。とても素晴らしい方がこの小原に住んでいらっしゃるのです。その方に曲作りをお願いしたいと考えています。このようにして、小原学園の歌をみんなで心を合わせて作っていきたいと思います。そして、11月には家の方や地域の方にお披露目できるといいなと考えています。ぜひみんなで頑張ってお手伝いしてほしいと思います。



※参加申込みについては、裏面をご覧ください。

【小原学園スクールソング 作詞 協力募集】

地域・学校，小原のみんなが歌える曲を作ります。小原にかかわる方なら誰でも参加できます。なつかしい母校に，故郷に帰ってきませんか？小原が皆さんを待っています。



令和2年7月31日（金） ※フリー参観日

時間：4時間目（11：30～12：15）

場所：白石市立小原小中学校（体育館）

内容：児童・生徒，保護者，地域の皆様，小原にかかわる方が一緒になり，小原に関するキーワードから連想される言葉や個々の思いや願いを語り合います。

参加お申込み：小原学園 （0224）29-2027（担当：高橋）

またはメール info@obara-j.shiroishi-c.ed.jp

※地域の皆様には，後日改めてご案内申し上げます。

地域に学ぶ～白石和紙～

白石市には古くから伝わる良き伝統文化，伝統工芸伝統芸術がたくさんあります。

そのような地域素材について，地域の方を講師に招いて学ぶ学習活動が「小原科」です。この活動は，他の学校にはない本校独自の学習活動です。

先日は，江戸時代から続く白石三大特産品の一つである白石和紙の命とも言われる原材料の「トラフコウゾ」の植え付け作業を小原中全校生徒で行いました。



現在も白石和紙を唯一漉き続けている団体「蔵富人（くらふと）」の代表，阿部桂治さんと遠藤智さんを講師に迎え，いろいろ教えていただきながら作業に取り組みました。

今後はうちわや文鎮作り，そして自分たちの卒業証書作りに取り組んでいく予定です。



阿部桂治さん 遠藤 智さん

白石和紙の思い継ぐ団体「蔵富人（くらふと）」

現在，唯一白石和紙の製造を続ける有志団体。「白石和紙あかりワークショップ」や「白石和紙あかり展示会」を開催し，白石和紙の良さを広めている。「蔵富人」さんが作る白石和紙はオリンピック金メダリストの高松ペアや羽生結弦選手に贈られた「宮城県民栄誉賞」の表彰状の用紙に使われています。

小原学園・ツバメ日記



一度は壊れた小学校昇降口軒下のツバメの巣。それでも諦めずにもう一度巣を作り直すなど，ツバメの巣作りからたくさんのお話を学びました。あれから一ヶ月が過ぎようとしていますが，無事4羽のヒナが生まれました。児童生徒や教職員に温かく見守られながらすくすくと成長しています。親が子供に餌を与える姿は，見ていて本当に微笑ましいです。

一日も早く，元気に小原の青空に巣立っていくことを心から願っています。

阿部桂治さん 遠藤 智さん